

令和2年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770108971		
法人名	社会福祉法人エージングライフ福祉会		
事業所名	グループホーム フローラ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市中区福田549-8		
自己評価作成日	令和3年2月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770108971-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和3年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で暮らして頂ける様支援しています。ADLや認知度の軽度の方が多く、家事作業や縫物もしていただきながら、職員や他利用者の方と談笑しています。居室へ閉じこもる事により認知症の進行も見られる為、声掛けしフロアで過ごしていただいています。そのため比較的ゆったりとした時間が流れ、穏やかに安心した生活を送って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に根差した施設」を目指して設立されたホームはバス停のすぐそばにあり、近くの府営住宅内にある公園は、桜や梅の木がある春の散歩コースです。ホームが発行する新聞は、一人ひとりの担当者が利用者の様子を写真とともに知らせる内容になっており、コロナ禍で面会が制限されている家族にとってはホームでの日常の様子を知ることができる大切な役割を担っています。長く勤めている職員が多く、職員間の会話の中で自然にフォローしたり、アドバイスを伝えることができます。管理者は特養での経験があり、個人ケース記録の大切さや時間がかかっても二人介助を行うことを薦めています。職員も傾聴する時間を大切にし、利用者が持つ力を発揮できるケアを目指しているホームです。「色々なことを学びたい」「利用者や家族の笑顔が嬉しい生きがいになっている」と話す職員は皆前向きで元気いっぱいです。管理者は、利用者・家族こそが自分たちに様々なことを伝えてくれる教科書であると考え、ホームでの生活が学びと成長の場であると認識し「寄り添う対応と会話」を大事にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は来訪者や職員が常に目に留まる場所、玄関1階・2階フロア・休憩室に掲示し共有し実践に繋げている。半年に一回達成度と自己評価を実施し、理念を共有し実践に努めている。	法人の理念は玄関や休憩室に掲示し、いつでも確認できます。方針は職員で考え掲示をし、半年ごとに自己評価を行い、振り返りをしています。「個人の意志を尊重し、地域でよりよい生活が継続できる場を目指します」を実践し、スピーチロックに注意して残存機能を活かし、自立決定を促すケアを重視しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは散歩時等気軽に挨拶を交わしている。利用者の息子さんがだんじりをしており、毎年施設の前にはだんじりが立ち寄ってくれ、小さい子供たちとの交流を図っている。今年度はコロナウイルス感染予防の為中止になっているが、同法人の多目的ホールにて月1回福来ろう喫茶を開催している。地域の方々との交流を図りながら喫茶を楽しんでいる。	コロナ禍で日常の交流が中断されていますが、地域の自治会長も参加する運営推進会議でホームの状況を伝え、意見等をいただいで交流が途切れないようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	退所された利用者の家族より、子供が生まれた時など、連れてきていただいた事もあったが、新型コロナウイルス感染防止の為、お断りしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、地域住民の方々との交流を図る場に、併せて地域の代表として自治会長・地域包括支援センターの職員・知見・家族に参加していただき、事業所の活動報告を行っている。様々なアドバイスや提案もあり質問や意見交換等サービスの向上に繋がるよう努めている。	自治会長・包括支援センター職員・家族の参加があります。運営推進会議は近くにある同法人のグループホームと合同で開催し、意見交換の中で認知症への理解を地域に進めています。自分たちと違うホームの貴重な意見を聞ける場にもなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括の担当者の出席もあり、相談及び助言をして頂きやすい環境となっている。基幹型の職員や社会福祉協議会の方々とも連携し、年間で認知症サポート養成講座も協力して取り組んでいたが、新型コロナウイルスの為、今は中止している。	顔を合わせるグループホーム連絡会の活動は自粛中ですが、居室の空き情報などもラインを活用してお互いに連絡を取り合っています。また、職員の唾液によるPCR検査を行い、感染予防への意識を高めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の生活の中で身体拘束をしていないかを職員同士で確認し合っている。又玄関の施錠は、前の道路が車通りであることから、入居時には、家族に説明し了承を頂いている。	ナースコールを使えない利用者に見守りを目的にセンサーマットをPHS(携帯電話)と連動させ夜間に使用しています。玄関は施錠していますが、利用者の様子を見ながら散歩に出るなど閉塞感をなくすように工夫し、エレベーターは自由に使えるようにしています。身体拘束・虐待防止・感染症の研修会などで理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年度までは身体拘束・高齢者虐待委員会にて職員が参加する研修会が開催されていたが、新型コロナウイルスの為、蜜を避けるために、委員会のみで研修を行い、各部署に伝達講習を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に後見人が付いている方がいる為、今後は学ぶ機会があれば活用したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学に来ていただき納得した上で契約をして頂いている。家族の不安や疑問はその時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置している。又運営推進会議には家族の参加もあり、家族からの意見等頂き、職員にも伝達している。	家族からの意見・要望があるときはホームでの状況をわかりやすく丁寧に説明をし、家族の思いにも近づけるよう向き合っています。職員への周知は連絡ノートに記録して伝えています。家族からも「どの職員もきちんと対応してくれるので安心」との感謝の声があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議に参加し、意見及び提案を討論する場を設けている。日々職員とのコミュニケーションを取っている。	管理者は、いつも声がかけやすく相談もしやすい環境にあります。職員は、管理者のフォローに感謝し、利用者の笑顔に喜びを感じる職場環境です。また、体調を崩した時なども職員が互いにフォローし合って必要な休暇も取れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の家庭事情や希望を出来るだけ聞くようにして、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員個々の力量を把握しそれぞれに見合ったケアの方法を伝達しチームで協力する事の重要性を提案している。又法人内で様々な研修会を開催し、自己啓発に努めていたが、現在は自己学習に徹底している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市中区のグループホーム連絡会や、認知症支援部会に参加し情報の交換等行っていたが、新型コロナウイルスの為、現在は実施していない。空室情報のみ連絡しあい、満室の場合は他グループホームへの紹介などを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族より困っていることを、及び不安な事、要望など見学時に聞き取り、施設であっても在宅で過ごしていた環境に近い状態で、生活が出来るように支援し、本人及び家族に安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から、本人や家族からの情報をもとに、本人が安心して日々の生活を送れるよう心掛けている。又初期段階で信頼関係に繋がるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して利用してもらえる様、本人の状態や家族の状況も理解する様取り組んでいる。必要とされているサービスを受けれるよう対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と食事や家事作業を共に行い、出来る事を取り組み暮らしの中で役割を持って生活出来る様支援している。利用者の中には、時間を見て台所に入り、職員と一緒に食事作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のフローラ新聞にて近況や家族の安心できるような報告を行っている。又面会時には体調及び状態の変化、転倒のリスク等を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでと同じような環境で過ごしていただく為、家族と共に馴染みの喫茶店へ外出したり、娘宅で本人の希望する食事が出来る様してきたが、新型コロナウイルスの為、すべてが中止となっている。	外出が困難なため、家族からの電話は利用者に繋ぐようにしています。ガラス越しに面会をすることもあります。日曜日にはおやつと一緒に手紙を書いて持ってくる家族があり、職員が利用者に手紙を読んでいます。利用者は「今日は土曜日やな」と職員に確かめながら日曜日を楽しみに待っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リハビリ体操や、歌、ゲーム等入居者同士の交流の場を設けている。又他者との関りが困難な入居者には職員が間に入り孤立しない様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されて、サービスを終了しても、年賀状や電話をくれる方がいる。新型コロナウイルスの為、来訪もお断りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションの機会を多く持ち、一人一人の思いを大切にしている。「買い物にいきたい」と訴え時には、直ぐに対応している。	2人で入所している利用者の、ひとりの退所後も、歩行の障害にならないように配慮した上で退所者のベッドを部屋に入れ、残された人の気持ちを支えています。利用者の日頃の声や、手に入った力の強さからも変化を捉え、些細なことでも気づきを伝え、共有するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	姉妹で入居されていたが、姉が亡くなり、その状況を把握できない為、同じ居室に姉のベッドを並べ、今まで通りの環境にしている。「お姉さんは入院してるよ」と職員が同じ答え方で安心して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者に合った1日の過ごし方を基本にし、その人らしい生活を送っていただいている。居室で戻り、掃き掃除やタオルなどを干して自由に過ごしているが、その方の心身状態の把握もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催前に職員全員から意見及び情報を収集し、本人にとってより良いケアの方法を話し合っている。又家族や本人の意見も取り入れ計画に反映している。3か月後には評価を行っている。	カンファレンスは6ヶ月に1回、職員も参加し課題を検討しています。日常はプランとチェック表で実践を確認し記録しています。プランも6ヶ月で見直しわかりやすい言葉で表現されています。個人ケース記録も毎日しっかりと書かれ、カンファレンスの資料にもなります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記載、朝・夕の申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の外部受診には家族が同行していたが新型コロナウイルスの為、現在は入居者の高齢の為家族のみの対応としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中区グループホームの連携により他施設の行事や地域の餅つき大会を見学したりと、日頃から外へ出るように支援してきたが、新型コロナウイルスの為、今年度は実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは報告・連絡・相談が出来る関係を保っている。又夜間や緊急時の対応も指示を仰ぎスムーズな入院支援を行っている。	ホームでは2週間に1回の嘱託医の往診や法人内より看護師が週1回訪問し入居者の健康管理を行っています。希望があれば入居前のかかりつけ医での受診も可能です。嘱託医は月2回にかかわらずホームを毎日訪問していますので相談があれば適宜対応が出来ます。又、夜間や緊急時も嘱託医と連絡が取れ、指示を仰ぐなど24時間適切な医療を受けられるよう体制を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週1回の健康チェックを行っている。利用者の急な体調変化にも的確なアドバイスをしてもらい、又緊急時には必要な助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院中には定期的に担当ケースワーカーに連絡を入れ入居者の様子を見に行っていたが新型コロナウイルスの為、電話連絡のみとなっている。早期の退院等の相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の対応や事業所の方針を説明し理解を得ている。又重度化や終末期のあり方については、主治医より適宜家族と面談して状態の説明を行っている。管理者からも施設で出来る事を十分に説明し理解していただいている。	入居時に重度化した場合や終末期の対応についてホームの方針を説明、安心して過ごせる様に努めています。利用者が重度の状態になった場合には本人、家族の意向を適宜確認しながら、医師、看護師、介護職員と支援方針を話し合いホームで出来る限りの支援を行っています。これまで看取りの件数は数例で、医療機関で終末期を迎えられる方が殆どです。今後は看取りも視野にいれた体制作りの必要性を感じています。法人の終末期や看取りの研修にはホームの職員も参加しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時には緊急対応マニュアルを作成し職員全員が周知している。又年間の研修会には「緊急時の対応」を掲げており参加を促していたが今年度は新型コロナウイルスの為、研修会は中止となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの為、1回のみになっている。避難訓練時には近隣の方々に声掛けし協力を得ていた。	毎年、年2回の消防訓練を実施し消防署より助言を得ています。火災発生時、地震発生時の災害対策マニュアルも作成、職員間で周知しています。マニュアルの見直しも定期的に行っています。備蓄は飲料水や食料品、介護用品等3日分ストックし表にして管理しています。又、非常災害時には地域住民の協力が得られるよう運営推進会議で声掛けをしたり、地域の行事には積極的に参加して日頃より交流に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し入浴や排泄時には特に気を付けプライバシーに配慮してさりげない声かけを行っている。	職員は家族、利用者一人一人の考えや意思を尊重し大切に声掛けや対応を心がけています。特に排泄や入浴の際はさりげない声掛けや本人の意思を尊重した声掛けを行っています。接遇マナーやプライバシー保護の勉強会や研修も年に1回行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や表情から想いを汲み取り納得しながら生活できるように支援している。不安等がある場合は時間をかけじっくり傾聴するようにしている。又様々な場面においてどうしたいのか、どちらにしますか等問いかけ自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	物盗られ妄想のある入居者が、不安な思いで職員に訴えた時などは、直ぐに対応し、一緒に探し安心していただく事をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	最近入所されて入居者が自分が作成した洋服を飾り、居室に戻り自身で衣装替えを行っている。その人らしいおしゃれが出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理レクでは入居者の希望を取り入れ、特にリクエストが多いホットプレートを使うお好み焼きや焼きそば等を一緒に準備し火傷に気をつけながら入居者と共に行っている。少人数で何回に分けて外食レクも取り入れていたが、新型コロナウイルスの為、今年度は中止している。	ご飯はホームで炊き、副菜はチルド食品を温め、必要に応じて、一口大や刻み食など利用者が食しやすい工夫をし提供しています。準備や食器洗い等の片付けは利用者も一緒にしています。月に1回行っている調理レクリエーションやおやつは献立から利用者の要望を取り入れ、調理から一緒に行い、楽しみの一つになっています。人気メニューはお好み焼き、焼きそばです。コロナ禍までは外食レクリエーションやおにぎり持参で公園に行っていた楽しんでいました。※調査日が調理レクリエーションの日でお好み焼きを調査員も食しましたが、とても美味しく家庭の味がしました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合チェック表に毎回の食事・水分量を記載し一人一人の一日の水分や食事量を把握している。水分が少ない入居者には、本人の希望する飲み物の提供を行っている。又本人に合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科・衛生士の口腔ケアを受けている。口腔内の臭いなどある場合は専用のうがい薬を処方してもらい清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合チェック表をもとに一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄をしてもらっている。夜間一人で排泄が出来る様ポータブルトイレを設置するなど工夫している。	職員は排泄チェック表を基に利用者一人一人の排泄パターンを把握しています。日中は出来る限り布パンツを着用し、トイレでの排泄を基本としています。夜間排泄の失敗を気にして15分毎にトイレに起きていた利用者が職員のアドバイスで夜間のみ紙パンツを使用し、熟睡できるようになった事例もあり、個々にあった排泄用品の使用にも気を配っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分量や食事量を把握すると共に食事前の体操等取り入れ運動を促している。又個々に応じて便薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を設定し入居者の拒否や外出に応じてその都度、柔軟に対応出来る体勢を整えている。	入浴は週2回を基本としていますが、利用者の状況や希望により柔軟に対応、週4回入浴している利用者もいます。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じる行事浴も行っています。入浴を洗る利用者にも無理強いせず、生活習慣や好みにあわせた声掛けするなど個々に沿った支援をしています。中には家族の協力を得て入浴している利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事作業及び余暇活動への参加を促し、夜間に安眠できる様支援している。又日中にフロアのソファにて臥床時間を設け、休息の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人が内服している薬の効果及び副作用、注意事項等いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で掃除や炊事・洗濯物たたみ・縫物等一人一人に合った役割をいただいている。散歩等を楽しみにされている方は新型コロナウイルスの為、中止し施設の中での出来る事(カラオケ)を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は外気に触れる機会を増やし積極的に散歩やドライブにて車窓を楽しんでいた。同法人の中で落語会や演奏会・福来ろう喫茶、苺の収穫を企画していたが、新型コロナウイルスの為、今年度はすべて中止になった。	今年度はコロナ禍の為、日常的な外出や散歩はできていませんが、通常は天気の良い日は近隣の公園へ散歩したり、希望があれば日用品の買い物に出掛けたり、ドライブに行ったりと外に出る機会を大切にしています。年間を通じて四季折々の外出行事も計画されています。又、これまで馴染みにしていた喫茶店へ家族と一緒に毎日出かけたり、月1回家族と外食を楽しんでいる利用者もあり職員はあたたかく見守っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と理解で2週間に一度入居者にお小遣いを持って来る。そのお金で職員同行で近隣で買い物に行く支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新入居の方で携帯電話を持っている方がいる。家族に電話が出来る安心感を持っていただき、不安なく過ごしていただいている。又新型コロナウイルスの為、外出できない入居者の方一名は毎週家族からの手紙を楽しみにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の玄関には表札を掲げている。見えない入居者には大きく表示し、居室を間違えないようにしている。又一日一回温度と湿度をチェックし記録し湿度温度管理を行い、感染予防に努めている。	建物の入り口は階段とスロープがあり、車椅子の利用者も出入りしやすくなっています。玄関を入ると左の壁には家族が描いた大きなフクロウの油絵が飾られ、右手にはカウンターがあり意見箱や利用者の手作りの作品が並べられています。壁にはホームの理念と方針が掲示してあります。食堂兼居間は日が差し込み明るく広々としており、日中は殆どの利用者が食堂兼居間で過ごしています。利用者の動きにあわせソファを置くなどゆったりと寛げる工夫をしています。職員と一緒に貼り絵の作品をつくる人や、テレビをみながら雑談をしている人など、それぞれ思い思いに安心して過ごせる場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの日当たりが良い所にソファを設置し、午後から入居者が並んで談笑できる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の馴染みのタンスなど置かれ写真等も飾っている。又仏壇を置かれている方も居られ、安心できる居室になっている。	居室入り口には手作りの表札が掛けられており、室内には洗面台とベッド、クローゼットが備え付けてあります。利用者が入居前に使用していた馴染みの家具等が持ち込まれ家族写真や利用者の手作りの小物で飾られた居室はその人らしい居心地の良い部屋になっています。洋裁をしていた利用者には、トルソー(洋裁用人体)が置かれていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内及び居室内はバリアフリーになっており転倒のリスクを回避する為、ベッドの位置などを工夫している。		